

星座早見盤を作って、 星座を見つけよう

[対象：小学校中学年以上]

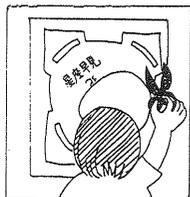
★ねらい 星座早見盤を自作することにより、星座早見盤のしくみや使い方を知らせ、星や星座などの位置、並び方、動きなどを観測できるようにする。

1. 星座早見盤を作る

- ・ 3枚の印刷された用紙（資料A、B、C）
- ・ はさみ ・ カッターとカッター板
- ・ わりピン（又は、ハトメ） ・ 千枚通し

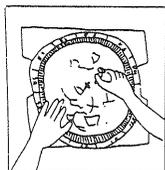
(1)表の用紙（資料A＝時刻の窓）、星図（資料B）裏の用紙（資料C＝台紙）を切りぬく。

○星図は、中を丸く切り抜いたり、時刻の窓を切り抜いたりするのでカッターの使い方に注意して切り抜く。



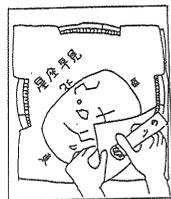
(2)裏になる用紙と星図をわりピン（又は、ハトメ）で止める。

○千枚通しで中心に穴を開け、わりピンで止める。ハトメを使う場合は穴を開けないで行う。



(3)表になる用紙をつける。

○裏になる用紙ののりしろの部分折り曲げ、丸い星図を包み込むようにして糊付けする。



○この時に、星図の「日付の部分」と表になる用紙の「時刻の窓の部分」がうまく合うように注意する。

2. 星座早見盤の使い方

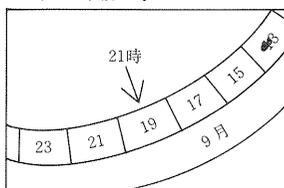
星座早見盤は、大きく分けて2枚の用紙でできている。1つは星座が書き込まれ、回りに日付が書かれている円盤状のものであるが、もう1つは時刻が書かれているものである。

◇月◆日△時の星空を見るためには、2枚の用紙を次のように合わせる。

○9月19日午後9時の場合

- ・ 21時（午後9時）の線と9月19日の日付けを合わせる。
- ・ 時刻の目盛りが、19日の真ん中になるようにする。

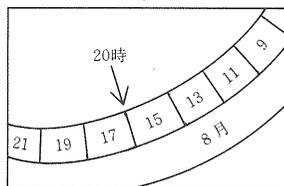
9月19日午後9時



○8月16日午後8時の場合

- ・ 8月15日と8月17日の間の線が8月16日になるので、ここに20時（午後8時）の線を合わせる。

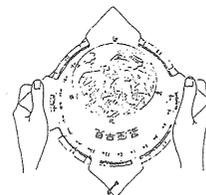
8月16日午後8時



【星座早見盤の持ち方】

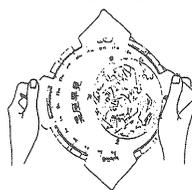
どの方向の星空を見るかによって、星座早見盤の持ち方が違う。

「北の星空を見る場合は星座早見盤の『北』を下にする。」ようにする。

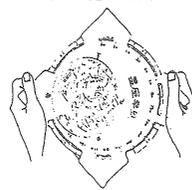


北の空の観察

東の空の観察

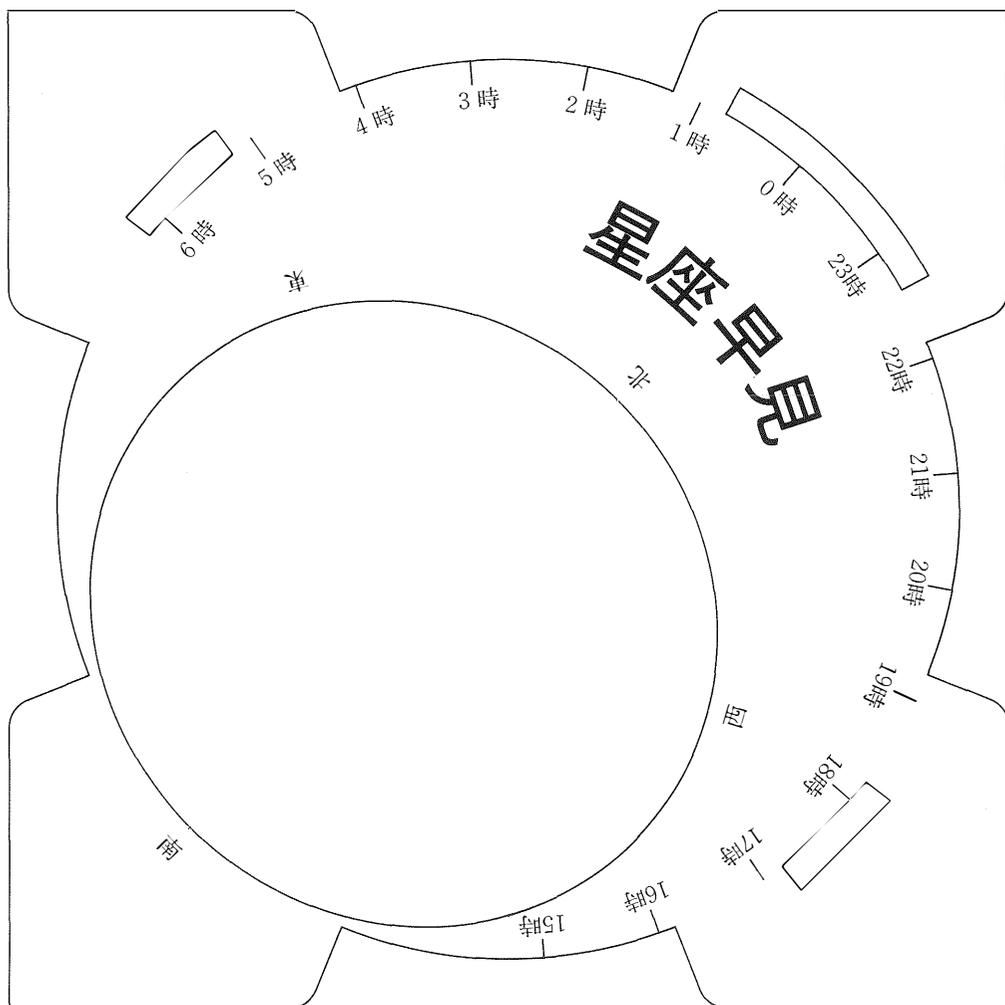


西の空の観察



○星座探しをしていて、星座早見盤や星図にのっていない星があることがある。明るくて、まばたかない星だったら、これは「惑星」である。惑星は星座の中を少しずつ動いていくので、何日かたつと、見える位置が変わる。

資料A 時刻の窓（2倍に拡大コピーして使用する。）



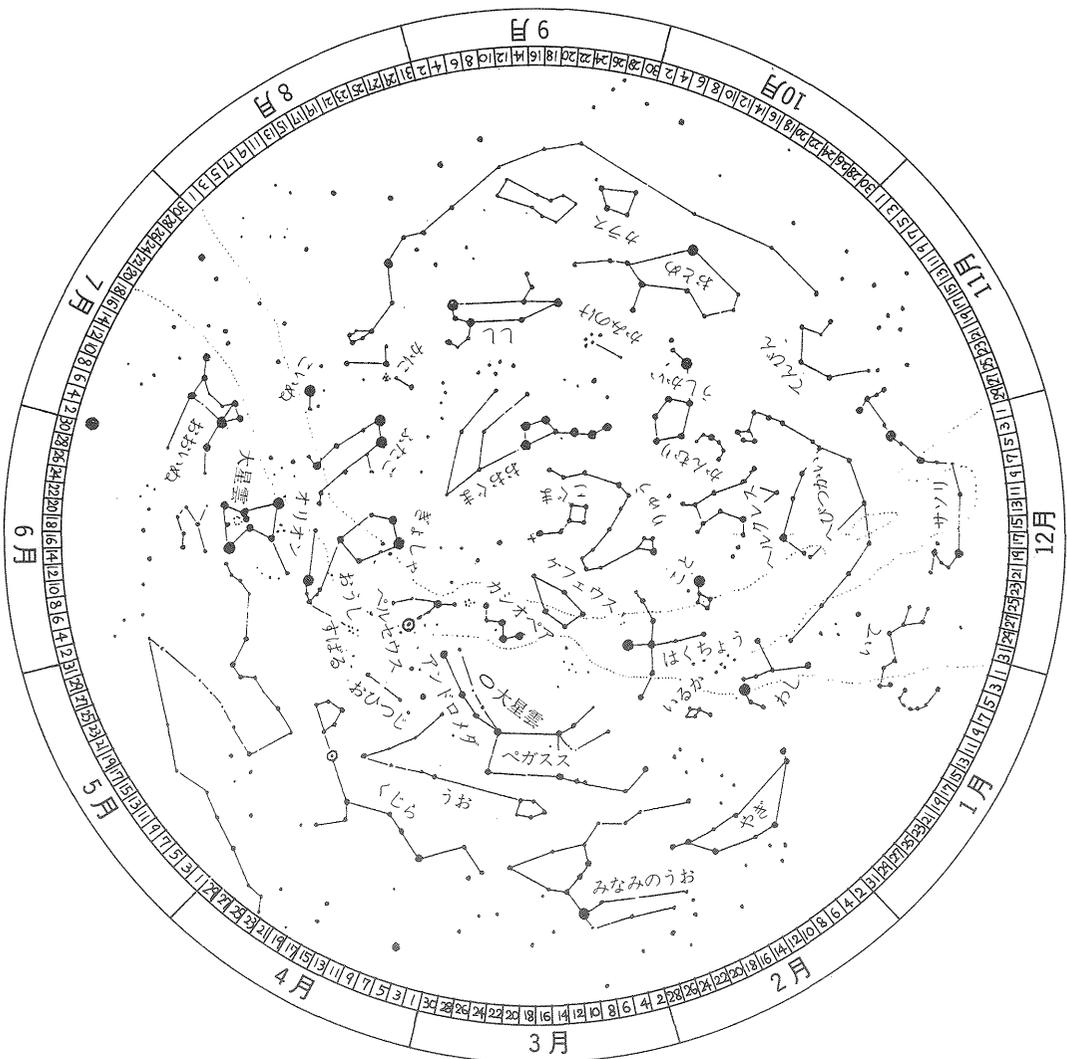
4. 資料

(1) 星座のおこり

今からおよそ5,000年も昔、メソポタミア地方（今のイラク付近）で、羊の群れを追って生活していた古代カルディア人が、羊の番をしながら、明るく目立った星を結びながら星座を作りました。それらの星座は、季節を知るためのもので、人や動物などに見立てて作りました。

その後、ギリシャに伝えられ、数多くの神話

資料B 星座図（2倍に拡大コピーして使用する。）



や伝説と結びつけられ、48の星座ができあがりました。

18世紀になると南半球への航海が始まり、南半球で見られる星座が付け加えられるようになりました。そして、1928年の国際天文連合第3回総会で、88個の星座が決められました。

(2)県内で観測できる一等星 アルクトゥルス、スピカ、レグルス、アンタレス、アルタイル、ベカ、デネブ、フォーマルハウト、カペラ、アルデバラン、ベテルギウス、リゲル、ポルクス、シリウス、プロキオン、カノープス

資料C 裏の用紙 (2倍に拡大コピーして使用する。)

